THE JOMO SHIMBUN　昭和61年（1986年）10月29日（水曜日）　第32957号（日刊）

上毛新聞

発行所（〒371）
前橋市古市町1－50－21
上毛新聞社
電話　前橋（0272）51－4341（代表）
夜間・休日電話
編集 51－4344
広告・販売 51－4346
事業 51－5079
FAX 51－4314
（前）14345（発）4363

◎ 上毛新聞社　1986

大吟醸手造り
かねもと
沼田市須賀神社前 ☎0278(23)5678

主なニュース

景気浮揚へ建設国債を増発（2面）
女詐欺師、主婦から4億円（3面）
東日本最古の環濠集落発見（16面）
尾島中で父母が校内〝巡視〟（17面）
高鉄局にもあった資材隠し（17面）

足尾線 新会社が暫定運営

国鉄改革法案が衆院通過

「2年間」の期限付き

同盟会成期 存続へ粘り強く運動

国会は二十八日の衆院本会議で、「国鉄の分割・民営化を柱とする国鉄改革八法案を自民、公明、民社三党の賛成多数で可決、参院に送付した。これにより、第二次臨時行政調査会の答申を受けた国鉄改革関連法案のうち、焦点となっていた足尾線の存廃問題をめぐる同盟会との協議が大詰めを迎えた。地元の存続要望を踏まえ、同盟会とともに国への存続陳情を続けてきた県は、〝今後も期成同盟会と粘り強い運動を続けていくだけ〟と二応、冷静に受け止めている。しかし、大きなヤマ場になるとみられる来年一月開催予定の分割・民営化底前の対策協議会での国鉄側の出方や移行後の新会社の方針を慎重に見守っていく構えだ。（関連記事 2面）

県交通対策課によると、二、一は「法案には新会社が赤字二次廃止対象路線十一線のうちバス転換や第三セクターが、二年間は運賃据え置き等」旧国鉄）が運営している負担を足尾線、太原線（千妻）真岡（栃木）の三線、だが本線、真岡間線は第三セクター移行の話が浮上しており、新会社運営が強く要請しているのは現状で足尾線だけとなっている。

足尾線協は今年十二月までに三回目の協議中断に入っており、来年一月の対策協議会で〝千人クリア〟が確認されれば、月から四月間の中断に入ることになっているが、その際、新会社が不採算の足尾線に対しどのような方針を打ち出すかはっきりしない。同課では「とにかく新会社が赤字路線の廃止を打ち出すことのないよう、粘り強く運動していく」と話している。

人事課では「最前研修を実施するなどして一日も早く戦力となってもらえるよう期待している」と話している。

「住民乗車運動の成果」

沿線5市町村

「二年間」という期限付きながら新会社への引き継ぎが事実上決定したことに足尾線沿線五市町村は一応〝予想通りの結果〟これまでの住民や別組織の運動の成果である」と受け止めている。しかし、民間会社移行後は「これまでの国鉄経営と対策協議会中断している両線にとって、六十四年三月という〝タイムリミット〟が設定されたわけで、住民の協力なくしては存続できない。

存続期成同盟会（会長・山際敏夫前小野町長）は「乗り残るニ会スローガンに住民の協力要請を展開、現住三回目の協議中断に追い込んでいる